
船員フェリペの日記

雪月花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

船員フェリペの日記

【Zコード】

Z38930

【作者名】

雪月花

【あらすじ】

時は大航海時代。ポルトガル船籍の帆船キャラベルに遭されたいたのは、船員フェリペの日記だった。

長期航海が可能となつた大航海時代、原因不明の病氣で死亡する船乗りが激増しました。壞血病です。この病気にかかると、内出血が増え、歯ぐきから歯が抜け落ち、全身から血が噴き出し、最後には死に至ります。

フェリペの日記は、今後、非常に残酷な展開となつていきますの

で、苦手な方は「注意ください」。

時代背景や帆船の描画、治療法など、なるべくその当時に沿つたものを書いていきたいと思います。明らかに間違っている箇所がありましたら、どうぞ優しくご指摘くださいませ。

登場人物

フエリペ（20） 主人公。エンリケ航海王子が設立したポルトガルの最南西端、サン・ヴィセンテ岬にある航海学校を優秀な成績で卒業後、近隣諸国をまわる商業船にたびたび乗っている。

マリア（17） フエリペの婚約者。両親兄弟を早くに亡くし、天涯孤独の身。

カルロス（19） 航海学校の同級生。陽気な小太り。

ベルナルド（21） 航海学校の同級生。背が高く神経質。

ガスパール（40） 船医（理容外科医） 中世ヨーロッパでは、散髪屋は外科医を兼ねていた。

1487年 8月～9月（前書き）

いろいろ追加しました。

1487年 8月～9月

1487年8月9日

リスボンを出航してから今日で1週間経つ。ずっと船酔いに苦しんできたが、昨日あたりから、やっと楽になってきたところだ。いつものように、カルロスとベルナルドはうんざりするほど元気だ。こればかりは奴らが羨ましくて仕方ないよ。

サン・ヴィセンテ航海学校で学ぶ数年間、寝食をともにした仲間だというのに、どうして俺だけが毎回苦しまなければならんんだ？まあ、これさえ乗り越えてしまえば、優秀な俺だ。気象学、航海術、そして地図製作術でも、絶対にヤツらに負けはしないぜ。

長期になると予想されるこの航海、未知の大陸や島々も見つかるかもしれない。途中で何があるかわからないが、俺は必ず生き残り、マリアの待つ母国ポルトガルに帰つてやる。

今回稼いだ金で、半年後には盛大な結婚式をあげてやるんだ、そひうひ、可愛いあいつのために。

8月29日

3隻からなる船団のうち、俺たちの帆船は3本マストのキャラベル。これは、全長30メートル弱、横幅約7メートルで、速くて小回りが利く立派なやつだ。
未知なる大陸や新しい航路を探すために、こいつに乗つて、もうすぐ1ヶ月経つのか……。

海賊の襲撃をかわしつつ外洋に出て、最初は東へ進んだ。次に南に方向転換し、また東へ、それからはひたすら南下している。

マリアは「斜めに行けば早いのに」なんて言つてたけど、コンパスを見ながら航行するにはカクカク進む方がいいんだよ。

ああ、マリア。あいつは今ごろ何してるだろ？ 昼飯の後片付けでもしてるかもしないな。それとも糸車を回している頃かも。

今、俺は休憩中だ。天気がいいから甲板に座つてこれを書いている。前後左右ぐるっと見回してみても、果てしなく広がる海以外は何も見えない。だけどさ、その何もないとこが俺は落ち着くんだけよな。

9月15日

あーあ、つまんねえな。リスボンの港を出て数日で生野菜も新鮮な肉もなくなつたし、今は塩漬け肉に塩漬け魚、豆や玉ねぎくらいしかまともに食えるものがない。

大好きなはずの船旅、それがときどき嫌になるのは、船の上では美味しいものが口にできないからだ。おっと、ワインやエールは大丈夫だな、まだしばらくの間は保つだろう。

今回、水は4ヶ月分くらいあるらしい。荒波で常に揺れてるし、樽に銀のスプーンを入れてるから、飲み水が腐る心配はない。

問題は食料だな。腹を壊さないよう、普段から鍛えてて良かつた！

9月19日

今日は、船医のガスパール親父に髪の毛をカットしてもらつた。
長い航海、何があるかわからないから船医は必要だよな。内科医にも居てほしいけど、船医はだいたい理容外科医と決まつてゐる。

……いつも思うんだけどさ、刃物に慣れてるからってどうして理容師が外科医も兼ねてるんだ？

なんで誰も疑問に思わないんだろうか。だつてさ、ヤツら理容外科医は、大切な人の命を扱うんだぜ。

医術を専門に勉強している『長衣の外科医』が船医にならないのは、奴らのプライドが高いからだけでなく、所属が違うかららしい。

それにもしても、チクショウ。「体液のバランスを取るから、どんな病氣にも効くよ」と言われたつて、俺はガスパール親父に血抜き療法だけはされたくないなー。

1487年 8月～9月（後書き）

エンリケ航海王子の村

正確な年は定かでなく1416年であるとされているが、ポルトガルの最南西端にあるサン・ヴィセンテ岬の、今日ではサグレスと呼ばれる一帯に、「王子の村」を建設した、とされる。この村に、造船所、気象台、航海術や地図製作術を学ぶ学校などを建設し、各種の航海術や地図製作技術に大きな発展をもたらした。しかし上記のような話が伝えられているが、この王子の村については裏付けが取れていらない部分も多く、存在したこと自体は否定されていないものの、幾つかの逸話については後世の創作ではないかとの疑いもあり、特に航海学校の存在については後世の創作であるとの見方が今日では有力となっている。

ウイキより転載しました。

航海学校が後世の創作の可能性が高いだなんて……、ショックだ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3893o/>

船員フェリペの日記

2010年10月23日12時39分発行